

# 平成 23 年度 一級建築士設計製図試験の講評

「介護老人保健施設（通所リハビリテーションのある地上 5 階建ての施設である）」

## コスモ建築塾で予想した主な内容と問題点

試験問題の主な内容と問題点	講習会で指摘した内容と問題点
従来型か新しい型(ユニットケア)か (基準階プランの比較)	コスモではユニットケアを中心に進めた。本試験は、従来型の厨房を中心にした垂直動線が主体となり、入所人数（各階 28 人）が異常に多い。コスモで演習した課題(11)はこの問題に最も対応しやすいプランとなっている。その内容は 2 ユニット、合計 16 室となっている。個室 2 室を合せて 4 人室で計画し、6 室とし、残りの 4 室を個室とすれば、まったく同じ平面計画となる。2 ユニットに分けた間仕切壁を除けばピッタリと一致する。
従来型のプランについて	この型は「最後の講義のエスキス課題」で取り上げた。厨房が約 100 m <sup>2</sup> と大きくなり、各階への配膳が中心になると指摘した。従って、E.V による運搬が重要となる。
レクリエーションルームと他の主要な空間	過去の一級試験では多目的ホールとして出題されているが、建物の中に取り込むのは、かなり難しい。コスモでは SRC を 2 課題演習し、天井高(3 m)の確保と無柱空間を実現した。明るく開放的な空間とするには、公園の前面に設け、この 2 つの条件が必要となる。食堂、食堂・デイルーム、機能訓練室も同様に考えてよい。
家庭的な共同生活と開放的な空間	家庭的雰囲気形成するには、入所居室からの食堂への移動がしやすく、全体にコンパクトにまとめることが重要である。直線的な廊下に沿って一列に個室が並びその端に食堂がある平面では、単に移動空間となり、隣同士のなじみの関係が形成されにくい。 (これがユニットケアの基本的考えである。)

今回のコスモの講習会の流れを説明する。まずツインコリダーで考えた。長い廊下の端に食堂が設けられる形である。この形は安病院のイメージであり、現在、厚生省が進めているユニットケア（少人数かつ個室による構成）にそぐわない。次に両サイドに入所居室を設け中心に食堂を持つタイプを考えたが 10 居室だったので、食堂が大きくなり、マッチしなくなった。次に 2 ユニットケア（2 ユニット合計 16 室）を考えた（課題 11）。このプランが今回の基準階プランにそっくり当てはまる。試験ではこれをベースにして個室 16 室のうち 12 室を使って 4 人室（2 室を合せて 1 室とする）を 6 室設け、残りの 4 室を個室として各階 28 人を確保した。

従来型は最後のエスキス課題で取り上げ、ユニットケアとの大きな違いは、1ヶ所に大きな厨房を設け、管理ゾーンを形成し、各階に配膳することが一番大きな特長とした。主要な空間は明るい開放的な空間が要求されているが、建築対応としては天井高 3 m、無柱空間、南の公園に面する形とし、一部を鉄骨鉄筋コンクリートとし、14m の大スパンとし、無柱空間とした。

全体的に 1～2 階の機能が少し複雑となり、駐車場の歩車分離も厳しい納まりとなり、密度の濃い課題となっており、受験生にとって苛酷な状況の試験だったと言わざるをえない。

——— 塾長談話 ———

**コスモ建築塾**